

アブサンショウウオ *Hynobius abuensis* の地衣状斑紋

竹谷 和葉・河口 和奏・村田 満

「山口県の自然」第80号（2020年3月）別刷

山 口 県 立 山 口 博 物 館

アブサンショウウオ *Hynobius abuensis* の地衣状斑紋

竹谷 和葉¹⁾・河口 和奏²⁾・村田 満³⁾

1 はじめに

アブサンショウウオの全身には、「地衣状斑紋」と言われる白色の微細な斑点が見られる。本種の写真を2019年山口生物学会「一人一枚生物写真発表」に出したところ、投影された写真を見て「ブチサンショウウオの間違いではないか？」など反響が大きかった(図1)。

そこで、地衣状斑紋を特徴とする種について調べることにした。

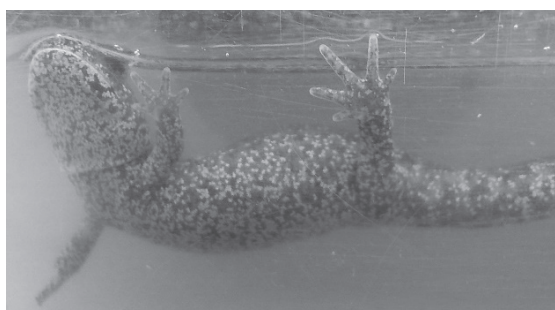


図1 腹部の地衣状斑紋



図2 肋条から尾側部の地衣状斑紋

2 方法 (文献調査)

- (1) 種名: ヒバサンショウウオ *Hynobius utsunomiyaorum* Matsui et Okawa, 2019

分布: 鳥根県・広島県・岡山県・鳥取県の中国山地

備考: 旧カスミサンショウウオ (高地型)

文献: 山田2006, 大川・他2019, 宇都宮・他2002

- (2) 種名: チュウゴクブチサンショウウオ *Hynobius sematonotos* Tominaga, Matsui et Nishikawa, 2019

分布: 山口県(図3)・鳥根県・広島県・岡山県・鳥取県の中国山地

備考: 旧ブチサンショウウオ *Hynobius naevius* (Temminck et Schlegel, 1838)

3 結果と考察

旧分類では高地型カスミサンショウウオとよばれていたヒバサンショウウオは、鳥根県東部・広島県北部・岡山県北部から鳥取県に及ぶ中国山地の脊梁部に分布する固有種で、地衣状斑紋が腹部から体側、そして背中にも広がっている。この特徴が西中国山地の西端に分布するアブサンショウウオまで続いているのだろうか。大川(大川・他2019)は、カスミ3大グループの間に存在する小グループ(石

1) TAKETANI Kazuha 学校法人山口高川学園, 中学3年

2) KAWAGUCHI Wakana 学校法人山口高川学園, 中学3年

3) MURATA Mitsuru 学校法人山口高川学園, 教員 〒747-0065 防府市大字大崎1061

見型・移行型・安芸型・阿武型)を、「変異により生じた特殊な小グループ」と考えている。アブサンショウウオ(図2)の魅力がまた一つ増えた。

旧ブチサンショウウオは、長崎県・佐賀県産がブチサンショウウオの集団として残り、中国地方の集団が新種チュウゴクブチサンショウウオ(図3)、九州北東部の集団が新種チクシブチサンショウウオとなった(日爬両会2019)。また、長野県白馬村産のハクバサンショウウオにも腹部から体側部にかけて白色の地衣状斑紋がみられる(環境省2019)。

山口県の西部に分布するヤマグチサンショウウオも、2019年に新種として分類された。本種は尾の上下に明瞭な黄条が現れるタイプであるが、繁殖期の成体の腹部には、わずかではあるが地衣状斑紋として分散した白色帯が現れる(図4)。



図3 チュウゴクブチサンショウウオ(山口県産)



図4 繁殖期のヤマグチサンショウウオ

4 まとめと展望

地衣状斑紋は、サンショウウオ属*Hynobius*のチュウゴクブチサンショウウオで顕著である。しかし、斑紋が大きく連続しており、アブサンショウウオのような微細な白点が全身に散在する特徴とは異なる。これまで使われた地衣状斑紋は、地衣類の形状を模してつけられた表現であり、チュウゴクブチサンショウウオには適している。しかし、アブサンショウウオの白色斑紋は「白斑顆粒の散在」と表現したほうが相応しいと思われる。

なお、小グループに分化した*Hynobius*属は、限られた環境でうまれた適応種と考えられる。その環境が失われれば、その種が絶滅することにつながる高い危機感をはらんでいることが分かった。この貴重な地域の宝を、これからも大切に見守っていかなくてはならないと思った。

5 引用文献

- 宇都宮妙子・岡田 純. 2002. カシミサンショウウオ高地型. レッドデータブックとっとり, p80
- 山田 勝. 2006. 岡山県におけるサンショウウオ科の生息状況について. 岡山県自然保護センター研究報告. 第14号: 1-13
- 日本爬虫両棲類学会. 2019. 日本産爬虫両生類標準和名リスト (PDF版)
- 大川博志・奥野隆史・宇都宮妙子. 2019. 西日本のカシミサンショウウオの3つの大きなグループ. 爬虫両棲類学会報, 第2019巻, 第1号: 9-21
- 環境省. 2019. ハクバサンショウウオ. レッドデータブック生物多様性センター